

## ぶつきょうしせつ 発掘された仏教施設



都筑区権田原遺跡 FH2号掘立柱建物跡（仏堂）から北の竪穴建物群をのぞむ

キーワード：古墳・古代・中世・近世・仏教・そんらくないじいん村落内寺院・にゅうじょうづか入定塚

『にほんしょき日本書紀』によると、きんめい欽明13年（552）に百済から仏教が伝えられたとの記述があります。どうわん銅甕やどうびょう銅瓶といった仏具も仏教とともにもたらされました。このような仏具は古代寺院へ伝わったもの以外に、古墳や横穴墓に副葬されたものもあります。副葬された仏具はいしんざい威信財としてみなされていたようです。その後、8世紀中頃にしやうむてんのう聖武天皇がこくぶんじ国分寺のこんりゆう建立をすすめたことを契機に全国に仏教が広まっています。

8世紀後半から9世紀になると、地方の集落やその周辺にも仏教に関する施設がつくられるようになります。「村落内寺院」とよばれるこのような施設は、堂1～2棟程度の規模で周辺からはがとう瓦塔やとうみょうざら燈明皿など仏教に関する遺物が出土します。

奈良・平安時代はそれまでの土葬に加えて、仏教の基本的な埋葬方法である火葬もおこなわれるようになります。火葬人骨をぞうこつき蔵骨器に納めて埋める埋葬方法は中世にも引き継がれますが、鎌倉周辺には「やぐら」と呼ばれる崖面に方形の穴を穿つうが納骨・供養施設も現れました。本号では市内の仏教関連遺跡を紹介します。

## 威信財としての仏具

左下の写真は、青葉区荏田に所在する赤田1号墳から出土した銅鉢の破片です。

赤田古墳群は5世紀末～7世紀にかけて造営された4基の古墳と42基の横穴墓からなる古墳群です。銅鉢は1号墳から出土しています。1号墳は7世紀初頭につくられた泥岩切石の横穴式石室をもつ直径約20mの円墳で、銅鉢以外に耳環・丸玉・小玉などの装身具、大刀・多量の鉄鏃などの武器と刀装具、刀子、須恵器の提瓶などが副葬されていました。

銅鉢は中国から韓半島を経由し、仏教とともにもたらされた仏具のひとつです。古代寺院へ伝わったもの以外に、このように古墳に副葬されるものもありました。6世紀前半から古墳に副葬されはじめ、6世紀の後半から7世紀前半には量が増え、承台付銅鉢などの様々な形態がみられるようになります。

赤田1号墳をはじめ銅鉢が副葬されている古墳では、ほかの副葬品や古墳形態はそれまでの伝統的な形態を引き継いでいることから、副葬された仏具は仏教的思想にもとづいたものではなく、ヤマト王権との関わりや地域を納める豪族としての権威や権力を示すための威信財として副葬された可能性があります。



赤田1号墳 銅鉢破片 (画像提供: 横浜市歴史博物館)



参考: 川崎市浄元寺裏横穴墓群1号墳 無蓋銅鉢 (所蔵・画像提供 川崎市教育委員会)

## Q. 横浜市内最古の仏像は？

横浜市域で最も古い仏像は鶴見区松蔭寺所蔵の「如来坐像(伝阿弥陀如来像)」です。製作年代は飛鳥時代後期、7世紀末から8世紀初頭と考えられています。『新編武蔵風土記稿』橋樹郡西寺尾村八幡神社条には、「本地は阿弥陀の坐像銅にて造る長二尺許」に当たるとみられ、19世紀初頭には現在の神奈川県西寺尾八幡社にご神体として祀られていたことがわかっています。明治初年に神仏分離令が発令されたことを受け、同社の別当寺であった松蔭寺に移されました。その後、昭和22年(1947)に横浜市資料調査会による寺院調査によって広く知られるようになりました。翌月には国立博物館(現東京国立博物館)に持ち込まれ、現在まで同館の寄託となっています。

参考文献: 横浜市歴史博物館編 2021年『特別展 横浜の仏像—しられざるみほとけたち』



松蔭寺所蔵 如来坐像(伝阿弥陀如来像)  
(画像提供: 東京国立博物館)  
Image:TNM Image Archives

## 古代寺院

### ①長者原（ちょうじゃはら）遺跡

長者原遺跡は武蔵国都筑郡の郡家と推定されている遺跡です。総柱式の掘立柱建物が整然と配されており、とくに東側の台地には、大規模な建物が存在することから政務をつかさどった庁舎群と考えられます。また、一部に倉も存在しています。さらに台地の基部には、郡司の居館や「厨家」と考えられる建物が存在します。遺物は「都」と書かれた墨書土器や硯の破片が出土しています。小谷をへだてた北東の拝堂地区からは、「寺」と書かれた墨書土器片が2点出土しており、郡家に隣接して寺が存在した可能性が考えられます。



長者原遺跡遺構配置図

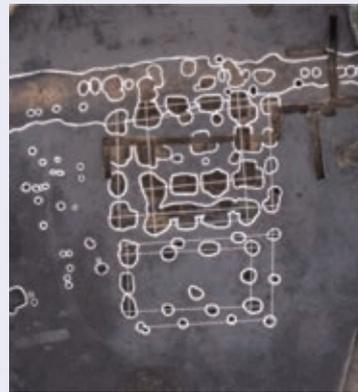
(山中敏夫・佐藤興治1985年『古代の役所』より引用)

## 村落内寺院

村落内寺院とは、集落の近くにつくられた仏教施設のことです。寺院と呼べるほどの伽藍配置（金堂・講堂・塔・回廊などの建物群とその配置）ではなく、堂1～2棟程度のものです。8世紀から9世紀になるとこのような仏教施設がみられるようになります。

### ②藪根不動原（やぶねふどうはら）遺跡

都筑区池辺町に所在する遺跡です。8世紀後半から11世紀初めまでの竪穴建物跡44軒、掘立柱建物跡34棟などがみつかっています。この内2か所に掘立柱建物跡が集中する場所があります。二間四方に四面廂がつく仏堂、高床式板間構造の双堂式掘立柱建物跡、僧房など寺院伽藍の配置を模した宗教施設の建物群とみられます。掘立柱建物跡などからは瓦塔片もみつかっています。



藪根不動原遺跡

32～34号掘立柱建物跡

(画像提供：横浜市歴史博物館)



参考：厚木市愛名宮地遺跡

瓦塔

(所蔵・画像提供：厚木市教育委員会)

### ③権田原（ごんだっばら）遺跡

都筑区早淵に所在する旧石器時代から奈良・平安時代までの遺跡です。このうち、奈良・平安時代では、竪穴建物跡70軒、掘立柱建物跡9棟、鍛冶遺構1基などがみつかりました。集落の2か所で掘立柱建物が何度か建て替えられています（表紙写真）。瓦塔など直接寺院と関係するような遺物は出土していませんが、仏鉢形土師器などが出土しており、村落内寺院が存在していたと考えられます。

仏鉢とは、仏教において僧侶が使用する食器のことです。本来は金属製品としてつくられるものですが、須恵器や土師器としてつくられるものもありました。



権田原遺跡 FH9-22号住居址 土師器仏鉢



遺跡・寺院位置図

## 中世のお墓

中世のお墓は大きく土葬と火葬にわけられます。土葬の場合は土坑に直接埋葬するか、木棺などに入れて埋葬します。火葬の場合は、火葬した後に火葬人骨を陶器の壺（蔵骨器）へ入れたり、土坑に直接埋葬したり、土坑内で火葬しそのまま埋葬したりします。地上の標識として五輪塔や板碑といった石塔類が置かれることもあります。このような葬送方法の違いは階層差によるものと考えられています。

### ④杉田東漸寺貝塚（すぎたとうぜんじかいづか）

18基の土坑墓と3基の火葬址がみつかり、火葬址の中からは供えられていたであろう炭化した錢入りのおにぎりがみつかりました。これらの遺構は東漸寺の墓域であったと考えられます。しかし、調査された範囲からは板碑や石塔類が出土しておらず、火葬址があるものの火葬墓がみつかりません。



杉田東漸寺貝塚 1号火葬址

### ⑤六浦大道やぐら群（むつうらだいどうやぐらぐん）

やぐらとは、崖面に四角い横穴を穿ってつくられた納骨・供養施設です。多くは複数基が群をなしています。内部には石塔類が納められ、納骨用の穴をもつものもあります。分布域は鎌倉とその周辺で、横浜市域では金沢区と栄区に分布しています。やぐらがつくられた理由は平地が狭かったためと言われていますが、被葬者は限られた階級であったと考えられます。

参考文献：『埋文よこはま』38号



六浦大道やぐら群 9号やぐら  
(奥に蔵骨器を安置するための穴が穿たれている)

### ⑥上台の山（うわだいのやま）遺跡

都筑区仲町台に所在する遺跡です。この遺跡からは鎌倉時代前半につくられた「方形環濠墓」がみつかりました。一辺10mの方形となるように四方に溝を掘り、西側の中央のみ道として掘り残しています。横浜市域では1例しかみつからない珍しい墓制です。中央には蔵骨器が4つ埋葬されていました。



上台の山遺跡 方形環濠墓

## 入定塚

### ⑦伊勢森原（いせもりはら）遺跡

この遺跡では近世の入定塚がみつかりました。入定塚とは行人塚の一種で、出羽三山信仰（特に湯殿山信仰）にかかわる塚です。湯殿山には「一世行人」と呼ばれる修行専門の行者がいました。一生の間肉食妻帯を断ち、行屋という小屋にこもり千日以上木食行（木の実・草の根のみ食する）や垢離（冷水を浴びて穢れや罪を清める）などの修行を行い、最終的には衆生救済（すべての生き物を迷いや苦しみから救い、悟りの世界へみちびくこと）を祈念して入定します。行き倒れの行人が葬られたものと自ら入定したと伝わるものがあります。



伊勢森原遺跡 入定塚  
(内部からは人骨・錫杖・キセル・銭がみつかりました)

# イベントのお知らせ

## 令和6年度 横浜の遺跡展

### 発掘された小机城

— 令和3・4年度小机城跡埋蔵文化財試掘調査成果速報展 —

【第1期】 ※各会場とも、観覧料は無料です

会場：港北図書館 1階 港北まちの情報コーナー

期間：令和6(2024)年11月1日(金)～29日(金)  
(休館日)11月5日(火)

開館時間：火～金 9:30～19:00、土～月・祝日 9:30～17:00

【第2期】

会場：城郷小机地区センター 2階 展示スペース

期間：令和6(2024)年12月1日(日)～令和7年(2025)1月31日(金)  
(休館日)12月23日(月)、12月28日(土)～1月4日(土)、1月27日(月)

開館時間：平日・土 9:00～21:00、日・祝日 9:00～17:00



◀小机城跡 北空堀調査区完掘状況  
▼小机城跡出土 筭(こうがい)



## 令和6年度 横浜の遺跡展 発掘された小机城 関連イベント

【講話】発掘された小机城—令和3・4年度小机城跡埋蔵文化財試掘調査成果について—

講師：平山尚言(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター)

日時：令和6(2024)年11月16日(土)

①10:00～11:30 ②14:00～15:30

会場：港北図書館 会議室

定員：各回40名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選、当落は11月8日までにお知らせ)

会費：無料

応募締切：11月5日(火)埋蔵文化財センター必着、①・②いずれかを明記

【講演会】小机城から中世の横浜を探る(令和6年度講座 横浜の考古学)

基調講演：「境界としての小机城—その歴史的・地理的位置づけと発掘調査の意義—」五味文彦(東京大学名誉教授 元横浜市文化財保護審議会委員 元公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団代表理事)

第1講：「小机城跡の発掘調査成果と今後の取り組み」近藤匡樹(横浜市教育委員会)

第2講：「玉縄城から小机城をながめる」玉林美男(鎌倉市教育委員会)

日時：令和7(2025)年1月25日(土)13:00～16:00(予定)

会場：港北公会堂

定員：300名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選、定員に余裕のある場合に限り当日参加も可)

資料代：1,000円

応募締切：1月14日(火)埋蔵文化財センター必着

【歴史散策】発掘された小机城を歩く

日時：令和6(2024)年12月14日(土)13:30～15:00(予定)

コース：JR小机駅～小机城址市民の森～城郷小机地区センター 2階展示スペース

定員：20名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)

保険・資料代：500円

応募締切：12月3日(火)埋蔵文化財センター必着

### ◆お申込み・お問い合わせ

往復はがき・FAX・メールアドレスのいずれかから、参加希望のイベント名・住所・氏名(ふりがな)・電話番号をご記入の上、下記埋蔵文化財センター宛てにお送りください。

### 編集後記

今回は発掘調査でわかった仏教施設について企画しました。普段お寺へ行ったり仏像をみる機会はあるかもしれませんが、発掘で仏教関連の施設や遺物がでることがあるというのは、なかなか実感がないかもしれません。また、今回はあげられませんがお寺の境内を発掘調査することもあります。これを機に興味をもっていたら嬉しいです。

冬は小机城関連のイベントが盛りだくさんです。小机城は令和3・4年度に曲輪(くるわ)や堀などの調査が行われ、筭(こうがい)や銭、取鍋(とりべ)などが出土しています。ご応募お待ちしております。

Y.N

横浜の埋蔵文化財について発信しています。ぜひ登録をよろしくお願いいたします!

X(旧Twitter)

Youtube



## 《埋蔵文化財センターのご案内》

施設は安全性の確認等を行っているため、現在一般の立ち入りが禁止となっています。

このため、当面の間、展示室の見学等施設のご利用が一切できません。

再開の見通し等につきましては、以下の埋蔵文化財センターHPでお知らせする他、Xでも配信いたします。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。



埋蔵文化財センターHP

## 埋文よこはま 48

発行日 2024年11月1日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団  
埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1151